

施設整備について（たたき台）

1 機能諸室の具体化検討

新たな神奈川県民ホールが目指す基本方針に乗っ取り、整備が想定される機能を役割ごとに6つのエリアに分け、整理をする。

それぞれのエリアは、基本的に個別の事業や利用が求められることから、可能な限り独立した動線を確保するとともに、相互に干渉する懸念がないように遮音性能や振動対策を行うこととする。

■機能諸室の例

（数値等は、予備調査の案やこれまでの委員会での議論、各ヒアリング、県民意見聴取等の内容から考えられるサイズ等を仮で記載）

主な機能諸室エリア		エリア概要例
①第1ホールエリア		・本格的なオペラ、バレエが実施できる多目的ホール ・客席 2,000 席～2,400 席（立見 100～200 席程度含む）程度 ・3.5 面舞台 ・走行型音響反射板 ・リハーサル室（主舞台のサイズ） ・多目的室 ・搬入口（11t トラック 2 台）
②第2ホールエリア		・客席 800 席～1,000 席程度 ・2 面舞台 ・吊込型の音響反射板を備え、生音の音楽利用も可能とする ・リハーサル室（主舞台のサイズ） ・搬入口（11t トラック 1 台）
③ギャラリーエリア	ギャラリー（大） ギャラリー（中） ギャラリー（小）	・広さの異なるギャラリーを 3 室設ける ・舞台芸術や音楽などでもできる多機能利用を想定する ・予備調査の案 1 では、500 m²、400 m²、300 m²で設定。 ・倉庫（兼審査室）を設置
④創造支援エリア	練習室	・練習室を 3 室
	製作工房	・映像室（製作・保管・配信）、材料加工工房、衣裳・幕類工房、組立・塗装工房の 4 室
	アトリエ	・1 室
	ワークショップ室	・楽屋（大）などを利用（機能の共有）
	研修室	・楽屋（大）などを利用（機能の共有）

	創造室	・運営者が機動的に使える部屋
	レジデントカンパニーオフィス	・複数室
⑤交流エリア	オープンロビー 公開空地	・あらゆる人々が立ち寄り、交流できる開かれた賑わいを創出するエリアとする ・カフェ、レストラン ・休憩スペース ・展望スペース ・情報コーナー ・インフォメーション ・展示スペース ・イベントスペース ・ライブビューイングスペース
⑥管理・その他 エリア	施設管理事務所 各種委託者控室 設備系諸室 駐車場・駐輪場	・施設管理者のための事務、控室 ・施設設備のための各種機械室 ・太陽光設備設置スペース ・施設利用者及び管理者のための駐車場（付置義務台数設置）

（参考）現状の県民ホールの諸室サイズ

エリア	面積（概算）
大ホール	6,096 m ²
小ホール	724 m ²
ギャラリー	1,447 m ² （ロビー込み）
会議室	648 m ²
駐車場	3,200 m ²
レストラン・カフェ	695 m ²
機械室	4,390 m ²
事務室	390 m ²
トイレ	760 m ²
エントランスホール	290 m ²
倉庫・控室等	450 m ²
小計	19,090 m ²
共用部分	9,386 m ²
合計	28,476 m ²

2 検討のポイント

(1) 第1ホールの客席数について

R 5 年度の予備調査時には、事業者のヒアリング等から、興行での利用が成り立つ必要最低限の席数として 2,000 席（案 2）～2,200 席（案 1）となっていた。バリアフリーの対策をするために、通路や席のゆとりを広くとると、原状の規模を維持しても同等の席数は設けられない可能性がある。

一方で、原状の 2,493 席を維持してほしいという声も多くあり、他の機能等を削っても席数を維持するかなど検討が必要。

(2) 第1ホールの舞台規模について

R 6 年 11 月 28 日の神奈川県議会第三定例会において知事より、「本格的なオペラやバレエの公演ができる施設（中略）としての再整備を念頭に置いています。」と表明している。本格的なオペラ、バレエを実施する上で、R 5 年度の予備調査時に、今の県民ホールの舞台の広さが重要という話があり、同等の舞台規模として、主舞台と同規模の両袖舞台及び半分の規模の奥舞台を備えることが考えられる。奥舞台は、走行型音響反射板の格納と、リアプロジェクションによる演出が可能となることを想定。

舞台規模について、検討が必要。

(3) 第2ホールの客席数について

R 5 年度の予備調査時に、大ホールが貴重であること。一方で 1,000 席に満たないイベントでの大ホールの利用があることから、1,000 席程度の中ホールを設け、中規模催事のために現在大ホールを使用している団体の受け皿とすることで、大ホールを真に必要とする利用者に、より多くの機会を提供することが可能になるといった提案があった。

小ホール規模のものを継承するか、中規模ホールを設置するか、検討が必要。

(4) ギャラリーの多目的化について

これまでの議論の中で、美術と舞台芸術の融合という話があった。R 5 年度の予備調査時にも案 1 としてギャラリーを 3 室（500 m²、400 m²、300 m²）設置し、多用途に利用できる機能を持たせるなど提案があった。例えば、1 室は、生音の利用も可能なギャラリーとして計画する。1 室は、ダンスや演劇などの利用も可能なギャラリーとして計画する。1 室は、ホワイトボックスとして計画する。などが考えられる。

このように、ギャラリーの室数、多用途利用について検討が必要。

(5) 創造支援エリアについて

基本方針の4「優れた文化芸術作品を創造する」のための諸室として、次のようなものが考えられる。①第1ホール及び第2ホール用のリハーサル室（2室）②練習室（舞台芸術や音楽用など3室）③製作工房（映像室（製作・配信）、材料加工工房、衣裳・幕類工房、組立・塗装工房など4室）④アトリエ（1室）⑤レジデントカンパニー用個室（複数）⑥創造室（運営者が機動的に使える部屋）など

どこまで創造支援エリアの諸室を用意するか検討が必要。

(6) もぎりとホワイエについて

日本ではもぎりを設け、ホワイエを設置することが一般的だが、海外では、劇場のドアもぎりで、ホワイエとロビーが一体となった施設も多くみられる。今後、デジタル技術の進歩により、チケットレスなどが進むことが考えられる中で、ホワイエを設けるのか、または、ホワイエとロビーを一体として床面積を有効活用することで、他の機能を設置するための床面積を生み出すことも考えられる。

もぎりとホワイエについて検討が必要。

(7) パイプオルガンについて

- ・ドイツ、クライス社製で公立ホールでは日本で最初に設置されたオルガンである。
- ・音が県民ホールの小ホールのサイズに合うように作られたもの。
- ・移設費用の概算：1億1千万円～1億4千万円（再整備に5～10年かかると想定する場合）
- ・日本オルガニスト協会から、日本のオルガン文化創成に寄与しており、我が国の「公共（公立）ホールのオルガン第一号」というレガシーを受け継ぎ何とか守ってほしい。という要望をいただいている。

現在小ホールに設置されているパイプオルガンの扱いについて検討が必要。

(8) 優先順位について

今回記載した諸室例を全て実現することは、敷地面積や予算の観点から難しい場合も考えられるため、必要性の高いものや、最低限必要な規模などの検討が必要。

■諸条件

所在地	神奈川県横浜市中区山下町 3 - 1
区域区分	市街化区域
用途地域	商業地域
防火指定	防火地域
敷地面積	10,946.395 m ²
建蔽率	80%
容積率	600%
その他	・ 第 7 種高度地区（建物高さの最高限度 31m） ・ 横浜市景観計画 ・ 関内地区都市景観協議地区 ・ 山下公園通り地区地区計画 ・ 中央地区駐車場整備地区

地区計画により、建物高さの最高限度は 31m と定められている。ただし、一定の公開空地の確保等の条件を満たしたうえで横浜市都市美対策審議会の同意を得ること
で、高さの緩和が可能である。

（９） 機能の共有について

これまでの議論の中で、機能を共有することで、限られた敷地面積の中に様々な機能を入れられる可能性が広がるといった意見があった。

機能の共有について検討が必要。例えば機能の共有として以下の点が考えられる。

① ロビーとギャラリーの機能共有

ロビーの一部にギャラリー機能をもたせる。

② ロビーとイベントの機能共有

ロビーの一部にイベントスペース（練習室）機能をもたせる。

③ ギャラリーとリハーサル室機能の共有

ギャラリー利用のない日に、リハーサル室としても提供する

④ リハーサル室及び楽屋と避難所機能の機能共有

リハーサル室や楽屋（大）を緊急時の避難所とする。

⑤ 搬入口の機能共有

ギャラリー用の搬入口は 4t トラック用とし、大きなものを搬入する時は、第 1 や第 2 ホールなどの 11t トラックが付けられる搬入口から運び入れることができるようにするなど。

⑥ ホワイエとロビーの機能共有

ドアもぎりとして、ロビーとホワイエ空間を融合させる。

⑦ 楽屋と会議室の機能共有

楽屋（大）で会議もできる仕様とする。

⑧ 製作工房やレジデントカンパニーオフィスとアトリエの機能共有

製作工房やレジデントカンパニーを設置する場合に、一部をアトリエとしても使えるようにするなど。